

“子どもの心に寄り添う教育”



園長 高杉 洋史



運動会の練習が始まりました

宗像市教育委員会から「子どもの権利条例」を作るにあたって、アイディアが欲しいと相談されました。世界には紛争や政治の乱れで、学校に行くことができない子どもたちや、教育どころかその日の食事も満足にできない子どもたちがいます。国連は子ども権利条約を作りましたが、その精神を宗像市で実現するための条例です。宗像市では良質の教育を受ける子どもの権利について考えています。改めて教育について考えているこの頃です。

人は幸せになるために日々努力しているのですが、幸せとか生きがいを感じる時ってどんな時でしょう。人という漢字の成り立ちについて小学校でも習いましたが、人は一人では生きていけません。人という字は二つの画が寄り添って互いを支えて成り立っています。そうなのです、自分が社会に役立った時、幸せや生きがいを感じるのですね。そのための教育には何が必要か。それは 一・基礎学力 二・基本的生活習慣 三・集団生活のやり方(社会性)

この三つがバランスよく身につくことが必要です。特に幼稚園教育では基本的生活習慣をしっかり身につけたいです。ゆりの樹幼稚園では、最近の幼児教育の世界での標語『早寝早起き朝ごはん』と、お父さんお母さん始め年長者を敬う心を大切にします。



テレビやゲームなど楽しい誘惑が多い社会になりましたが、子どものために午後九時には子どもを寝かしつけたいですね。親が添い寝してくれながら絵本を読んでくれたら子どもたちは最高でしょうね。この少しずつの努力の積み重ねがきつと幸せを大きいものにしてくれるでしょう。

子どもたちの社会性の発達について嬉しかったことがあります。運動会の練習で、開会式の入場行進をしたのですが、練習一日目から上手なのです。二日目はとても上手なのです。年長さんの今までの経験が年中さん・年少さんにも伝わるのですね。日常の家庭教育、そして幼稚園での生活の積み重ねが、みんなで力を合わせる状況判断を促すのですね。目を見張る子どもたちの成長の場面に立ち会うことができたことに感謝しています。